

研究主題 「お互いを思いやり 大切にしよう児童の育成」

～道徳の授業を要とした思いや考えを「つなぐ」マネジメント～

本庄市立北泉小学校

1 研究主題の設定理由

今年度は、研究主題は本校校長の育てたい児童像から「お互いを思いやり大切にしよう児童の育成」と設定した。そして主題に迫るための副題を決めるにあたって、職員に道徳の授業に関するアンケートを行った。結果として、多くの職員が道徳の授業の基礎・基本の部分や、切り返し方、道徳的価値をどうやったら深められるのかというところに困り感があることが分かった。そこで、「つなぐ」マネジメントを行うことで、児童と児童、児童と職員、職員と職員、地域と児童、地域と職員、教材と児童など様々なことを結びつけていくという思いをこめて本副題を設定した。

2 研究の仮説

- (1) 教員が授業力を向上すれば、児童同士が対話をし（つながり）、自己の生き方を深めることができるだろう。
- (2) 別葉を活用し、地域家庭学校、道徳科と各教科をつなぐことで、学校教育全体でお互いを思いやり大切にしよう児童の育成ができるだろう。

3 研究の経過

月	内容
4月	・研究主題、副題の決定 ・研究組織の作成 校内「別葉の活用方法」 指導者 道徳主任 笹澤 有香
5月	・校内「授業作り研修及び、道徳授業作りシートの活用の仕方」 指導者 道徳主任 笹澤 有香
6月	・校内師範授業 5年1組「のりづけされた詩」（日本文教出版） 授業者 道徳主任 笹澤 有香
7月	・「WEB-QU」1回目の分析と活用
8月	・校内研修（各部の活動、指導案検討）
9月	・児童、職員、保護者に向けた「道徳アンケート」の実施
10月	・第1回校内授業研究会プレ授業 1年2組「おおひとやま」（日本文教出版） 3年1組「バスの中で」（日本文教出版） 5年1組「くずれ落ちただんボール箱」（日本文教出版） 指導者：道徳主任 笹澤 有香

1 1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ先生 公開授業 5年1組「離れていても」(彩の国の道徳) 授業者 道徳主任 笹澤 有香 ・第1回校内授業研究会 1年1組「おおひとやま」※学級閉鎖のため未実施 (日本文教出版) 3年2組「バスの中で」 (日本文教出版) 5年2組「くずれ落ちただんボール箱」(日本文教出版) 指導者:埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 教育課程担当 土井 鉄平 氏
1 月	<p>講義「子どものよさや可能性を引き出し、つなぐ、道徳教育」 指導者:十文字女子大学 教授 浅見 哲也 氏</p>
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回校内授業研究会 4年3組「わたし、まちがってないよね」(日本文教出版) 6年3組「最後のおくり物」(日本文教出版) 指導者:埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課 教育課程担当 土井 鉄平 様 ・1年間の成果と次年度の課題

4 研究の内容

研究推進委員会を中心に本研究内容の企画を立案した。そして、全教職員が授業研究部、調査分析部、環境資料部に分かれて所属し、組織的に取り組んだ。

(1) 授業研究部の取組み

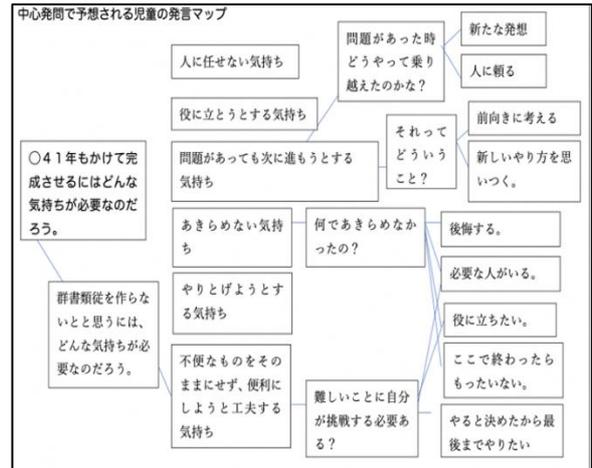
教師の明確な指導観に基づいた授業を行うため、教材研究に焦点を当てている。

- ①教師の明確な指導観をもとに、授業を構想することができるように、授業づくりシートを作成した。(資料①)
- ②中心発問においては児童の考えを予想し、その発言に対してどのように問い返しを行うと、価値が深まるのかを明確にするために児童の発言マップを作成した。(資料②)

道徳授業づくりシート	
本時の内容項目	D 真理の探究
教材名	盲目の学者—「群書類従」にいだんだ埒保己— 主題 課題に気づいて解決する心 出典:彩の国の道徳(小学校高学年) 夢にむかって
本時のねらい 41年をかけて群書類従を完成させた時の気持ちを考えることを通して、課題を解決するときの大切な気持ちを考え、疑問や課題を追求し続けようとする心情を養う。	
価値観	<p>本時の内容項目に関わる授業者の考え(何を大切にしているか)(授業者の価値観) →(1)ねらいや指導内容について</p> <p>・自分の生活を少しでもよりよくしていくために様々な見方・考え方をしながら工夫することが大切である。疑問を解決しようとする探究し続けることが大切である。それは将来の夢や理想を実現することにつながる。 ※真理を大切にしながら積極的に新しいものを求め、生活を工夫していこうとする心を育てる。 ※真理・誰も否定できない普遍的で妥当性のある物事の筋道</p>
児童観	<p>各教科や特別活動において、本時の内容項目についてどのような指導を行ってきたか。</p> <p>その指導の積み重ねによってどのような児童のよさや課題が見えてきたか。 →(2)児童の実態について</p> <p>児童のよさや課題に基づいて、本時の道徳的価値についてどのようなことを考えさせるか。(A)</p> <p>よさ ・課題に対して積極的に取り組もうとする児童がいる。 課題 ・課題がわかっているが、積極的に課題の解決に向かえない児童がいる。</p> <p>課題を解決する時に必要な気持ちについて考えよう</p>
教材観	<p>Aを考えさせるために教材をどのように活用するか。(3)授業展開</p> <p>○発問(その発問をする意図) 補補助発問・問い返し(その補助発問をする意図)</p> <p>中心発問 人間理解 価値理解 他者理解</p> <p>○41年もかけて完成させるにはどんな気持ちが必要なのでしょう。(課題を解決する時に必要な気持ちについて考えさせる発問) 補自分がやる必要があったのですか。</p>

資料①

- ③教員等の困り感で一番多かったものが「児童とのやりとりが一問一答になってしまい深まらない」ということであった。そこで、どのタイミングでどのような意図を持って問い返せるのかを表にまとめた「つなぐ」発問集を作成した。
- ④「つなぐ」ヒントカードを作成した。教材研究の段階で、「つなぐ」ことで児童の考えの深まりの手助けになるような方法を一覧にまとめた。



資料②

- ⑤県独自の道徳教育用教材を活用した道徳教育の取組 道徳教育用教材「彩の国の道徳」、「彩の国の道徳 未来に生きる」を各学年で年間2、3回取り扱うよう計画・実施した。11月のはつらつ先生授業公開では、「離れていても」(彩の国道徳『未来に生きる』)を教材として扱い、県内の小中学校の教員が参観した。

(2) 環境整備部の取組み

①別葉の理解、活用、作成

学年会「別葉どうよ？デー」を設け、親切、思いやりに関わる内容をわかりやすくした別葉を活用し、学年間で実行できたら色を変えたり、できたもの、できそうなものは新たに追記し、実行、見直しができるようにした。

(資料③)

課題 (しょうがくどくいきるちから)	特別活動				言語 (ことば) (けい)
	主な 学級行事	学級活動(1)	学級活動(2)	クラブ活動・ 委員会	
1. 大切な仲間 Cよりよい学校生活、集団生活 の充実 2. ありがとう B 感謝	給食式 1) 式 Cよりよい学校生活、 集団生活の充実 2) 命の輝き D 命の輝き	2. つなぐの会 1) 式 Cよりよい学校生活、 集団生活の充実 2) 命の輝き D 命の輝き	1) 式 A 感謝、励 励 B 反省、信 信 Cよりよい学校 生活、集団生活の 充実	1) 式 A 希望と美、勇 力と強い意志 B 反省、信 信 Cよりよい学校 生活、集団生活の 充実	1) 式 A 感謝、 B 親切、思い やり
3. 心強いゆた A 感謝、励 励 D 命の輝き	交通安全教室 D 命の輝き	学校の授業を考え てみよう	心強い仲間 を 見つけよう	学校の団結力 を 見つけよう	心強い 仲間を 見つけよう

資料③

②ぽかぽかの木

「親切、思いやり」の視点で児童がしたこと、してもらったことを掲示した。その際、別葉との関わりを教員も意識できるように、「授業で」「生活場面で」「行事で」などの視点ごとに色を変えた。

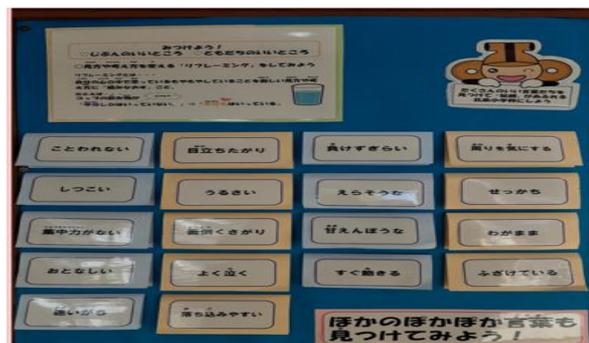
③偉人の言葉

偉人の言葉を特別教室の児童の見える場所に掲示した。掲示することによって、偉人の言葉から人とのつながりの大切さや関わり方について考えるきっかけを与えた。

④リフレーミング

次に後ろ向きな言葉やマイナスなイメージのある言葉を言い換えたものを掲示した。

(資料④)



資料④

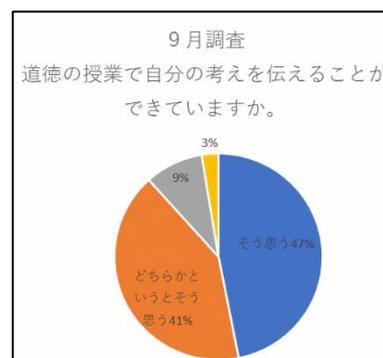
(3) 調査研究部の取組み

主に実態調査と考察、研究授業における記録を活動としている。アンケートは児童、職員、保護者に実施した。特に児童に対しては道徳では「自分の考えと友達のことを比較・検討しながら深めていくことが大切」だと考え、埼玉県の問題である「友達と考えを伝え合うことは好きですか」という項目を入れた。また「あなたの考える「親切・思いやり」とは何ですか」という項目を取り入れ、研究を進めるうえで考えの深まりや変容を見取る予定である。

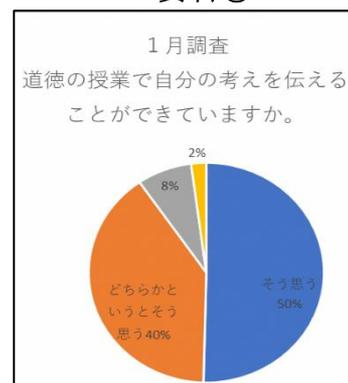
5 研究の成果と課題

(1) 成果

- WEBQUの結果より、前回ソーシャルスキル（配慮のスキル）の割合が、53%であったところ、今回は58.7%と5.7%アップした。また、ソーシャル（関わりのスキル）の割合では、前回31.5%だったところが今回は33%となった。1.5ポイントアップした。また、やる気（友人）の割合が前回38.4%だったが、今回49.5%となり11.1%アップした。これらは、思いやりに対する声掛けや指導を道徳の授業を要に全教職員で共通して指導を行った結果であると考えられる。
- 道徳の授業が好きかどうかを聞き、好きだと答えた児童の理由を聞いたところ、「みんなの意見が聞けて楽しいから」「みんなで大切なことを考えて知ることができるから」などという記述が多く見られた。この記述から相手の話を聞き、自分の考えを伝え、自分をよりよくしていきたいという意欲が高まっていることが感じられる。また、本校のアンケートで行った「自分の考えを伝えることができる」では、前回そう思うが47%（資料⑤）だったが、今回50%となりわずかに向上が見られた。（資料⑥）児童同士の考えを「つなぐ」という意識を基に道徳の特質を理解して職員が授業に臨むことが多くなったことで児童が考えを表出するようになったと考えられる。



資料⑤



資料⑥

(2) 課題

- 今回、授業研究部、調査研究部、環境整備部と職員を分けたが、授業研究部以外の職員に「つなぐ」授業がどのようなものなのかの共有が弱くなってしまった。来年度は全教員で授業の楽しさや要点を共有できるようにしていきたい。
- 地域や家庭とのつながりが弱くなってしまっている。来年は行事や学校だよりなどを通して地域や家庭と「思いやりある児童を育てたい」という思いを共有したい。